



ぶんりだより



「実りの一年」

学院長 小野塚 雅信

類を見ない長い残暑により、ゆっくりと染まりゆく紅葉や黄金の銀杏並木を見ながら感慨にふける間もなく、気が付けば師走の時期となりました。

さて先日、日本漢字能力検定協会が毎年実施する一年間の世相を表す漢字に、今年「税」という一文字が選ばれました。物価の高騰に加え、新たな税制度の導入等、年間を通して増税や減税の話題が飛び交った事で、国民の生活に直結するこの漢字を選んだ人が最も多かったようです。二位には「暑」。三位には「戦」。明るい漢字よりも不安を表す漢字が上位を占めた事からは、なんとなく暗い出来事を思い返す人が多い一年だったのかもしれない。しかし、春先にはコロナウイルスが五類に分類され、ようやく様々な活動が制限なく再開出来るようにもなりました。そう考えると決して悪い事ばかりの一年ではなく、ようやく大きな雲の隙間から明るい光が差し込んだ一年であったように思います。

文理学院の一年間を振り返ると、充実の「実」という字が当てはまる年になったと感じています。年度当初に予定していた行事は日程調整をしながらも、ここまでほぼ全て実施する事が出来ました。特に飲食を伴う従来型の文化祭を四年振りに復活させられた事は、本当に学院内の明るい話題となりました。

本学院は、皆さんの出来る事をひとつでも多く増やし、自信を付けてもらう事を教育の第一義に掲げています。その為には、座学を通して多くの知識を付けてもらう事と同時に、様々な人たちと協力をし合って沢山の経験を積む事が不可欠です。だからこそ色々な行事を行えたこの一年は、本当に「実」り多き年になったと実感しています。皆さんもぜひ、この年末をゆっくりと使って、前向きに一年を振り返ってみてください。自身の成長を感じられるはずです。

保護者の皆様、本日までの深いご理解とご協力、誠にありがとうございます。また、体育祭や文化祭に際しましては格別のご高配を賜りました事、厚く御礼申し上げます。年が明けますと、いよいよ一・二年生は進級の準備、そして三年生は卒業の日が近付いて参ります。限られた時間とはなりますが、全生徒の更なる成長を目指し尽力して参りますので、変わらぬご協力をよろしくお願い致します。

新年が皆様にとって希望に溢れる一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

行事予定

一月

- 九日 学年集会
- 十八日・十九日 三年 卒業試験
- 二十日 第三回英語検定(希望者)
- 二十二日～二十六日 通信制試験対策授業
- 二十八日・二十九日 通信制試験
- 三十日 試験休み
- 三十一日 一・二年 進路説明会
- 三年 登校日



二月

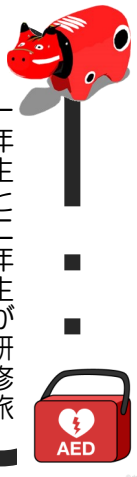
- 三日 二年 模試(大学希望者)
- 五日～八日・十三日・十五日 一・二年 三者面談
- 二十一日 三年 登校日
- 七日 第三回漢字検定 (三年は希望者のみ)
- 九日 第四回保護者役員会
- 十三日 三年 登校日
- 十四日 一・二年 学年末試験
- 二十一日 三年 登校日
- 二十六日・二十七日 一・二年 試験返却日
- 二十八日 三年 登校日
- 二十九日 一・二年 試験返却日

三月

- 一日 一・二年 大掃除
- 四日 一・二年 試験休み
- 三日 三年 登校日
- 卒業式
- 五日 一・二年 試験休み
- 六日 一・二年 修了式
- 七日 一・二年 修了式
- 十一日～十四日 一・二年 春期講習

東京文理学院高等部
令和五年度 第四号
発行日 令和五年十二月二十日

研修旅行



一年生と二年生が研修旅行に行つてまいりましたので、ご報告いたします。

一年生は、十月九日から十一日まで福島県での林間学校に行きました。会津の歴史を学んだり、赤べこの絵付けやいわなのつかみ取りをしたり、様々な体験をしました。

二年生は、十月十二日と十三日、同じく福島県でのスクーリングに行きました。稲刈りや水族館の見学を楽しむだけでなく、AED体験講習に真剣に取り組み、充実した研修旅行になりました。

友人たちと寝食を共にし、日常ではなかなかできない経験をしたことで、ひと回り成長できたことが生徒たちの作文から伝わってきますね。



一年一組 岩山 瑠夏

今回の林間学校は、高校で初めての宿泊行事で、凄く良い思い出になりました。最初は少し不安でしたが、友達との話もはずみ、少しづつ楽しくなってきました。バスの中で友達と沢山お喋りが出来たので、幸せでした。

一日目は途中で体調を崩してしまいました。一日目は途中で体調を崩してしまいました。一日目は途中で体調を崩してしまいました。一日目は途中で体調を崩してしまいました。

二日目は、まず赤べこの絵付け体験をしました。自分オリジナルの赤べこを作ることが出来ました。どういふ赤べこを作ったのかというと、私は黄色が大好きなので、パワーを感じるように黄色をたくさん入れました。海外の人にも想いが伝わるように、英語も入れました。午後は鶴ヶ城に行きました。お城が凄く綺麗で立派で、お城の上から見た景色が最高でした。

最終日には、イワナのつかみ取りをしました。あまり魚を追いかけすぎると逃げてしまうので、捕まえるのが難しかったです。ですが、運良く捕まえることが出来て、嬉しかったです。

ワクワクドキドキした三日間で、不安があっても、まずは行動することが大切だと改めて思いました。今回経験したことを、今後の学校生活にも活かしていきたいです。

一年二組 濱中 樹

十月九日から十月十一日まで、林間学校で福島県に行きました。初めての宿泊行事だったので、楽しみな気持ちと不安な気持ちがありました。

まず、一日目はバスに乗って、体育館にドッジボールをしに行きました。楽しい時間を過ごすことができました。

二日目は、沢山の観光地に行きました。その中で特に印象に残ったのは、会津藩校日新館です。ここは人材の育成を目的に造られ、「仕の掟」を守らなければいけないことを学んでいく場であったのだとわかりました。教えに対して厳しいとは思いましたが、心身を鍛えるにはとても良い場所だったのだと感じました。

三日目は、いわなの郷というところに行き、イワナの掴み取りや餌やりを体験することができました。掴み取り体験は、前半後半の二グループに分かれて行うことになり、自分は後半のグループでイワナを掴むことになりました。前のグループが捕まえようとする様子を見ていて、水が冷たいことに加えて、イワナはとても素早いので、捕まえるのは難しうだと感じました。実際、とても難しかったです。ですが、昼食に出たイワナの塩焼きはとても美味しかったです。

最後に、今回は高校生活初めての宿泊行事でしたが、三日間という短い期間の中で、普段はなかなかできない経験を沢山積むことができました。とても充実した三日間でした。

一年三組 佐賀 琉輝

林間学校の前日から、私は緊張と不安でいっぱいでした。当日の朝は、雨が降っており、集合場所までの移動が少し寒かったです。

初日の体育では、ドッジボールをやりました。二試合行って、その内の一回はボールに当たらずに内野に残ることができました。体育が終了して宿に到着した時には、すでに辺りは暗くなっていました。初日という緊張感からか、その日は寝付くまでに時間がかったのを覚えています。

二日目の朝、赤べこの絵付け体験をしました。筆を使うのは久しぶりでしたが、満足のいく作品を作り上げることができました。磐梯山3Dワールドでは、眼鏡をしている時とそうでない時で映像の見え方を見比べて、3Dがどのようなものか分かり、新鮮でした。次に行った会津藩校日新館は、事前学習で調べた場所でした。展示品の中に内容が分かるものもあって興味深かったです。最後は鶴ヶ城へ行き、天守閣に登りました。天守閣から見下ろす町は、本当に美しかったです。

三日目は、いわなのつかみ取りをしました。ジャージが濡れてしまいましたが、一匹つかむことができて、嬉しかったです。

最初は不安もありましたが、振り返ると、今まで交流の無かった人とも話せたので、とても充実し、また、成長できたとも思える行事でした。

一年四組 高林 芽愛

私は林間学校を通して、貴重な体験をしました。まず、私は宿泊委員になり、しおりを作りました。クラスの皆と赤べこのページを作りました。協力して作ったページを学年全体に見てもらえる喜びはとても大きかったです。

林間学校一日目は、ドッジボールをしました。あまり得意ではありませんが、思いきり投げたボールで当てることができましたので嬉しかったです。

二日目は、磐梯山3Dワールドで眼鏡を掛けて映像を見ましたが、自然は大切だと気づかされるような作品でした。また、会津藩校日新館にも行きました。白虎隊は、幼い人たちが活躍をしていたと知り、驚きました。そして、鶴ヶ城にも行きましたが、階段が多く、上るには苦勞をしました。しかし、その分、一番上に到達した時の景色はとても綺麗で、心が晴れやかになったことを今でも覚えています。

三日目は、ホテルで朝食の挨拶をしました。全体の前で話すことは初めてだったので少し緊張しましたが、しっかりと伝えることができましたので良かったです。そして、この日は、私が一番楽しみにしていたイワナの掴み取りがありました。イワナは、軍手が動くくらい元気でしたが、捕まえることができて嬉しかったです。

二泊三日の林間学校は、職員と協力し、クラスの仲間とより一層仲を深め、良い思い出になりました。

二年一組 岡本 一花

十月十二日と十三日にスクーリングがあり、二年生は一泊二日で福島に行きました。福島では、稲刈りやAEDの体験授業を受け、大きな海洋環境学習施設であるアクアマリンふくしまにも行くことができました。

特に思い出に残ったのは、福島の素晴らしい自然です。移動中、バスの中から見えた壮大な山々や森林、いわたの郷から眺めた小川や溪流、とても空気がおいしく、リラックスすることができました。

そして、一番感動したことは、蛙がいたことです。普段生活を送っている環境では、ほとんど蛙を見ることがないので、とても新鮮で、すごく嬉しかったです。蛙を眺める時間は、とても楽しい時間でした。

振り返ってみると、いざ行くまではとても不安でした。私は長時間車やバスに乗ることに苦手意識があり、今回のスクーリングも欠席したいと思っていました。しかし、家族にたくさんサポートしてもらい、先生方も私の負担が少なくなるよう配慮して下さいました。その結果、何とかスクーリングに行くことができました。

今回のスクーリングは、少し大変でしたが、「行った」ということも含めて良い経験ができ、多くのことを学ぶことができました。自信に繋がった、充実した二日間でした。

二年二組 大橋 悠斗

私は昨年度の林間学校は行くことができなかつた。だが、今年度のスクーリングには参加することができて良かった。当日の朝は涼しかったので、スムーズに集合場所の公園に到着することができた。窓の外の景色を眺めているとあつという間にサービスイリアに到着した。

福島に着くと、まずは稲刈り体験をした。最初は稲が固く、うまく切ることができなかつたが、数を重ねることに慣れ、手際よく刈ることができた。その後、AED講習では、命について真剣に考えさせられた。初日の旅程を終えて、吹の湯へ到着した。宿は食事会場や大浴場、自分の部屋などどれも綺麗で驚いた。そんな綺麗な部屋で、就寝前にテレビを見たのは良い思い出だ。

そのおかげか、二日目の朝はすっきりと目が覚めた。集合時間にも余裕をもって集まることができ、ほっとした。アクアマリンふくしまでは、色々な生物を見ることができた。中でも印象に残ったのは、アザラシとトドだ。ガラス越しに迫力満点のアザラシとトドを見ることができた。何度も見たくなって、水族館を三回も周った。お土産を買いに行ったららみゅうでは、福島限定のお土産を買うことができた。それは桃の被り物をしている柴犬のキーホルダーだった。

これから文化祭が始まり、クラスメイトと協力する必要がある。今回、職員と協力して集団行動を行ったことを活かして、良い企画にしていきたいと思う。

二年三組 村田 晴哉

私は十月十二日から十三日にかけて、福島にスクーリングに行ってきた。

まず、初めに高田馬場からバスに乗り、高速道路に乗って、いわなの郷まで行きました。いわなの郷で昼食を食べ、田んぼに移動し、稲刈りをしました。鎌で刈るのはとても難しかったけど、やっていく内に上手く刈れるようになって、うれしかったです。その後、いわなの郷に戻って、救護活動の練習をしました。今までAEDを使ったことがなかつたので、どんな時にどんな形で使ったらよいか、実際にどういう風な手順で使ったらよいかなどを体験しながら学ぶことができました。また、友人や家族が倒れた時に、この経験を活かすことで、少しでも命を救ってあげられると思います。安心して宿についた後は、夕食・入浴を済ませて、部屋で、みんなでゆっくり過ごして、寝ました。

次の日は、宿を出発してからバスでアクアマリンふくしまに行きました。アクアマリンふくしまに関する問題を解きながら周りしましたが、その問題が難しく、なかなか上手く進みませんでした。魚たちはとてもきれいでした。昼食後、最後にお土産を買って、バスで高田馬場へ帰ってきました。

この行事でクラスメイトとの交流をより一層深めることができ、充実した活動になりました。

十月十二日、十三日の一泊二日で、福島にスクーリングに行きました。

一日目で印象に残っているのは農業体験です。農業体験では、まず、稲架に刈り取った稲穂を干す稲架掛けの作業を行いました。稲架掛け作業は意外に簡単で、束になった稲をクロスさせて干し、束の間が空かないように押すのを繰り返しました。クラスの間みな協力することで、あっという間に終了しました。

次に、鋸鎌で、土から十穂の所を刈る稲刈り作業しました。十本の稲の束をまとめて刈る際は、鋸鎌の使い方のコツが掴めず、力が入ってしまいました。また、刈った稲を束にする際は、なかなか束を結ぶことができず、難しかったです。農家の方の大変さがわかりました。

二日目はアクアマリンふくしまに行き、ワークシートに取り組み、海洋生物について学びました。見たことや聞いたこともない魚の生態を知ることができました。

今回のスクーリングでは、様々な貴重な体験ができただけでなく、宿でクラスメイトとカードゲームをしたり、普段の学校生活ではできない楽しい時間を過ごすことができ、良い思い出になりました。

体育祭

十月二十六日(木)、台東りバーサイド陸上競技場にて、第三十回体育祭が開催されました。天候に恵まれ、全学年での綱引き、騎馬戦、追いかけて玉入れなど、近年実施していなかった種目も再開されました。

体育祭に対して、苦手意識を持っていた生徒は少なからずいたでしょう。しかしながら、クラスメイトと一緒に競技に参加したり、出場している友達を応援したりすることで団結する素晴らしさを経験し、苦手意識を随分克服できたのではないのでしょうか。

また、クラス対抗の競技では、「目標に向かって集団で何かを行う楽しさ」を肌で感じられたと思います。また一つ、大きな行事を通じて大切なことを学びましたね。

体育祭を終えて

朝倉 慎太郎

ここ数年の体育祭は、開催時間が、午前中のみ短縮されたり、感染対策の観点から、種目が大幅に変更されたりと、安全を第一に考えながらも、皆ができる範囲内で、最大限に盛り上げられるよう努めた、そういった内容でした。

その様な困難のなかで得られた経験は、皆を大きく成長させる貴重なものではありましたが、しかし、やはりできることなら制限なく、全力を注げる体育祭を体験させてあげたい。本部として運営に携わっていた身としては、そうした思いに苛まれてもいましたが、今年度ようやく、本来の形での体育祭を実施することが叶いました。

三年生ですら経験したことがない、つまりは、全校生徒が初めての状態で臨んだ今年度の体育祭は、とても大変だったと思います。

そうした状況にも関わらず、皆さんの前向きな姿勢と取り組みによって、行事を成功に導くことができましたね。夏休み中から活動をしていた応援団の素晴らしい演奏、体育委員や美化委員の活躍ぶり、そして、競技に出場する皆さんの一生懸命な姿は、見ている人たちの胸を打つものでした。

一、二年生は、今回の成功体験をもとに、来年度の体育祭をさらに盛り上げていってくださることを期待しています。

体育委員長より

三年四組 行田 薫

私は今年度、体育委員の委員長を務め、自分自身にとって高校生活最後となる体育祭を全校生徒の中心となって作り上げました。委員長に任命された当初は、私にこの大役を務められるか、不安しかなかったのですが、副委員長をはじめ、先生方などたくさんの方たちの支えがあったお陰で、最後まで自分の役割を務めきることができました。

今年度の体育祭は、昨年度までとは違って、騎馬戦など接触が多い種目が追加されたり、声を出しての応援ができるようになったり、終日での開催になったりと、様々な制限が解除され、新型コロナウイルスが流行り出す前の体育祭に戻ることができました。

フィールドを縦横無尽に走り回る出場選手からは、勝利を目指す強い姿勢が感じられ、また、スタンド席から出場選手を応援する人々からは、熱気が伝わってきました。

紅組も白組も皆が全力で取り組み、今年度の体育祭のスローガンである、「縦横無尽に輝け！青春Festival！」にふさわしい生徒一人ひとりが輝くことができた、素晴らしい体育祭になったのではないのでしょうか。私にとっても、自身が経験した体育祭の中で、最も良い思い出になりました。委員長を引き受けた経験を今後活かしていきたいと思えます。

一年一組 佐藤 美弥

十月二十六日に体育祭が行われました。私は体育委員の一員として、約二か月前から準備をやってきました。

直前の用具係の活動では、今年のスローガンである「縦横無尽く輝け！青春Festival！」という看板を作る作業をやりました。とても大変な仕事でしたが、作り上げたものが最終的にどうなるのか、想像しながら作っていました。そして当日、私たちが作った看板がスローガンとしてグラウンドに飾られていて、物凄く嬉しかったです。

体育祭では、初めて代走を任せられました。代走を務めたのは「クラス対抗リレー」です。私はゼッケンを着て、何とか走り切ることができました。また、私が出場した種目の中で一番思い出深いのは「大縄跳び」です。全体で跳べるかどうか不安でしたが、友達が「きつと跳べるよ。」と言ってくれたので自信がつき、一学年の中ではどのクラスよりも多く跳べました。とても良い思い出になりました。

最後に、私が出た種目を紹介します。「百米メートル走」、「大縄跳び」、「クラス対抗リレー」、「綱引き」、「追いかけて玉入れ」の五つです。どの競技も、とても楽しかったです。来年、再来年の体育祭も、優勝できるように頑張りたいと思います。

一年二組 岡崎 萌音

十月二十六日に、高校生になって初めての体育祭がありました。当日は雲一つない快晴で、気持ち良かったです。委員会、応援団、大縄跳びが特に心に残っています。

委員会では、放送を担当しました。原稿を読むだけでも緊張しましたが、実況が一番緊張しました。自分の前に先輩方の上手な実況を聴いていたので、不安が大きかったです。様々なイレギュラーはありましたが、場が盛り上がる実況ができたと思います。

応援団も、初めての挑戦でした。夏休み前から始まったダンスの練習では、振り付けを覚えることやダンスを揃えることに苦戦しましたが、夢中になって取り組みました。当日皆に披露するまでは、踊る位置や移動の仕方などで頭がいっぱいでしたが、本番は楽しく、力強い演舞ができました。

大縄跳びでは、練習の時よりも長く跳び続けられたことが一番印象に残っています。跳んだ数を数えてくれる先生方が、熱く応援してくれました。そのお陰もあってか、やる気もますます上がり、より長く跳び続けることができました。

初めての体育祭で、始まる直前まで不安や緊張がありました。ですが、始まってみるととても楽しくて、自然と笑顔になっていました。楽しく体育祭を終えることができて、本当に良かったです。

一年三組 長妻 煌希

私が体育祭で一番楽しかったと感じた種目は、クラス対抗リレーです。走る前は緊張していましたが、いざフィールドに立ってみると、それほど緊張していませんでした。私は第一走者でした。ダッシュをしたのは久しぶりで、体が前のめりになっている感覚に驚きました。バトンを渡すのは難しく、また挑戦したいなと思いました。

綱引きもとても楽しかった競技です。私は、チームプレーに苦手意識がありましたが、みんなと協力して綱を引いたあの時間は、とても充実した時間でした。綱を持ったときのチクチクとした感覚も、印象的でした。

応援団も、夏休みからの練習は大変でしたが、とても楽しめました。踊っていたときに、きよろきよろとしてしまったことが反省点ですが、全力で踊れたので思い出に残りました。

振り返ってみると、体育祭でこんなにも楽しめるとは思いませんでした。自分が出る競技だけでなく、クラスメイトの応援なども一生懸命にやることができました。来年は、紅白リレーにも出場してみたいです。

一年四組 川地 健友

十月二十六日に、一年生にとって、初めての体育祭が行われました。

僕は、ワクワクしていましたが、少し不安なこともありました。出場競技の二つ前の競技が始まる時に、招集場所に行

かなければならないのですが、僕は出場する競技が一つ飛ばしにあったので、間に合うかどうか不安でした。しかし、どの種目も、しっかりと間に合うことができたので良かったです。

一方で、楽しかったこともたくさんありました。特に、自分の競技だけではなく、クラスメイトを全力で応援したことが楽しかったです。小中学校の頃は自分のことで頭がいっぱいで、周りの応援をする余裕はありませんでした。今回は、自分の競技に一生懸命に取り組み、さらに皆の応援をすることもできたので、より体育祭を楽しむことができました。そう思うと、僕的心も成長できているのかなと思います。

そして、出場して一番楽しかった競技は、部活対抗リレーです。走るメンバーがなかなか決まらなかったのが心配しましたが、当日は気持ちが高ぶった良いリレーになりました。ラケットをバトン代わりにしたおもしろさがあり、また、卓球部の一員として出場できたことが何よりも良かったです。

最後に、こんなに楽しく、良い思い出になった体育祭を準備してくれた、先生方や体育委員の人達には感謝しています。来年の体育祭も、全力で取り組み、楽しみたいと思います。





二年一組 中山 優

十月二十六日に体育祭が行われました。天気恵まれ、晴天の中で体育祭を行うことができました。今回の体育祭では多くの競技に出場できました。

まず初めに、障害物競走で代走で出場しました。練習をしていなかったのに、不安もありましたが、思った以上に楽しく走ることができました。次はクラス対抗リレーを走りました。一生懸命走った甲斐もあり、二人抜かして一位になったことは嬉しかったです。

他にも、大縄跳びや棒引きなど、クラスメイトと協力して競技に取り組み、特に大縄では学校三位になるなど、良い思い出になりました。また、綱引きでは、先輩にアドバイスを貰い、それを意識した結果、二回とも勝つことができました。

そして、最も印象的だったのは、応援団です。何回も応援の練習やダンスの練習をしました。長い時間がかかっただけに、とても大変でしたが、本番ではミスなく踊ることができ、大きな達成感を得ることができました。

今回の体育祭は、出場した全ての競技を一生懸命に頑張りました。その結果、最後には優勝することができました。一生の思い出となる体育祭にすることができました。

二年二組 中村 依生

十月二十六日木曜日に行われた体育祭。白組として、私とクラスメイトは赤組と競い合ったが、結果は敗北であった。

だが、それでも本当に楽しい一日となった。私はクラス対抗リレー、綱引き、棒引き、大縄跳び、そして応援合戦に出場した。さらに、代走として紅白対抗リレーにも急遽出場することになった。

棒引きでは、初めは接戦でどちらが勝つかわからない状況であった。白組の勝利のため、最後の一戦では一つの棒を狙い、スピードで勝負した。すると、一人で棒を取ることができ、勝利に貢献することができた。

そして私が一番楽しみにしていた応援合戦。私は副団長として皆の前で袴を着ることにした。副団長に選ばれた時はとても驚いたが、徐々に嬉しさが込み上げてきた。副団長として、練習にも身が入った。

いよいよ本番である。団長たちと袴を着た時、周りの人たちが褒めてくれたことは嬉しく、今でも鮮明に覚えている。大きな声を出し、全力で創作ダンスとソーラン節を踊った。それがとても楽しく、心も躍った。

全ての競技が終わり、白組は負けとなった。しかし、この作文で述べてきたように、充実した体育祭となり、良い思い出となった。

二年三組 平林 純弥

十月二十六日に台東リバーサイドスポーツセンター陸上競技場で体育祭がおこなわれました。今年度の体育祭で私は白組でした。当日に私が出場した種目は、二人三脚、大縄跳び、綱引き、棒引きでした。

二人三脚は、クラスメイトといっしょに三十メートル走る競技でとにかく息を合わせて走りました。その結果、二位に入れてよかったです。

また、大縄跳びは練習の時よりも多く跳べましたが、一組には勝てず、二位となり、とても悔しかったです。その二つの競技以外は、観戦でクラスメイトの応援をし、午前の部が終わりました。

昼食を食べた後少しして、午後の部が始まりました。午後の部の最初は応援合戦でした。両方の組のダンスを見て、頑張っている姿に勇気づけられました。その後、自分が出場したのが、綱引きです。綱引きは綱が大きくて持つのが大変でしたが、頑張って耐えて二連勝してとてもうれしかったです。

そして、最後に出た種目は、棒引きでした。棒引きは練習もなかったため、クラスメイトとの連携が難しかったですが、それでもなんとか勝つことができました。その後、騎馬戦や紅白対抗リレーを見て、全ての種目が終了しました。結果は惜しくも、紅組に負けてしまいました。来年も楽しみにしています。

二年四組 稲田 真

十月二十六日に、台東リバーサイドスポーツセンター陸上競技場で体育祭が行われました。

私は、個人競技では二人三脚、団体競技では大縄跳び、綱引き、棒引きに出場しました。更に、応援団を務めて紅白応援合戦にも出場しました。

最初の競技の二人三脚では、ゴールの手前で、足に結んでいた手ぬぐいがほどけそうになったので、最後はケンケンしながら走りました。結果は、四位でしたが、無事にゴールできましたし、友達と楽しめました。

大縄では、縄を回しました。大きな声で、「せーの」と掛け声を掛け、縄を回すのは大変でしたが、クラスメイトが一回でも多く跳べるように頑張りました。連続で跳ぶことはできませんでしたが、練習の時よりも多くの回数を跳べたことは、嬉しかったです。

紅白応援合戦の演舞では、大勢の前で踊るので、最初は、緊張してしまいました。しかし、いざ本番になって曲が流れると、緊張がなくなり、思いっきり、ダンスを踊ることができました。

棒引きでは、クラスの男子と気合を入れて臨みました。紅組が一勝二敗で負けて、悔しい思いをしました。来年の騎馬戦では、絶対に勝ちたいです。

二人三脚や棒引きは悔しい思いもしましたが、全ての競技に全力で取り組み、クラスメイトとの絆が深まった、心に残る体育祭になりました。

三年一組 山田 裕高

高校生活最後の体育祭を、無事に終えることができました。

私が所属した白組は、僅差で紅組に負けてしまいました。私が出場する競技で良い成績を残せたことや、白組の仲間たちと力を合わせられたので、満足できる形となりました。私が出場した種目は大縄跳びと綱引きでした。

大縄は、結果から言うと、全学年トップを獲得することができました。

昨年度もトップだったので、特にこだわりを持って取り組みました。練習時は自分なりの縄のタイミングを掴み、連続で安定した跳び方を意識し、何十回も跳べるようになりました。本番では、緊張のせい、体力の消耗が激しく感じましたが、「一位になりたい」という気持ちが強かったため、極限状態になりながらも、安定して回数をこなすことができました。

綱引きでは、全二試合に参加しましたが、両方とも勝利を飾ることができました。一試合目は、最初紅組がやや優勢だったものの、徐々に白組の力が増したことで、勝利できました。二試合目は、始めから終わりまで、押されることなく勝利を掴み取るという熱い展開となりました。かなり力が必要な競技だった為、終わった頃には手の痛みを強く感じましたが、白組の団結力が輝いていたのと、純粋に試合を楽しむことができたことが、良い思い出となりました。

紅組には、総合点で、あと一步のところで負けてしまいました。悔いのない体育祭になりました。次は、文化祭に向けて、良い準備をしていきたいと考えております。

三年二組 葛西 煌大

十月二十六日、天候に恵まれ、雲ひとつない青空の下、台東リバーサイド陸上競技場で体育祭が行われた。高校生活の最後の体育祭ということもあり、熱い思いが高まった。

私が出場をして特に印象に残っている競技は、紅白対抗リレーだった。私はアンカーを務めた。アンカーとしてリレーを走っている私のイメージが常に頭にあった。不安と緊張でいっぱい、正直他の競技にあまり集中をすることが出来なかった。それでも、クラスのみならず「葛西ならやれる。」と励ましてくれた。

リレーが始まり、バトンを受け取った瞬間、私は自身の力の全てを出し切ろうと走り出した。周りの声援が背中を押し、力強く走り続けた。ゴールが近づくにつれ足が重くなり、息も切れてきたが、最後の力を振り絞ってゴールを目指した。ゴールにたどり着いた時の達成感は今も忘れられない。アンカーを務められて、本当に良かった。大きなプレッシャーがある中、自分の限界に挑戦出来たことを誇りに思う。高校生活最後の体育祭、ひとつひとつの瞬間が大切な思い出になった。

三年三組 齋藤 優人

高校最後の体育祭の一番の思い出は、クラス対抗リレーで一位を取ったことだ。私は、一走目を担うことが決めた時から、緊張していた。体育祭が延期になったことにより、想定以上に長い期間、緊張することとなった。

そして、当日。クラス対抗リレーが近づくにつれ、緊張はどんどん速くなり、招集場所に着いた時には、自分でも心音が速くなっていると明確に分かる程に緊張していた。

いよいよ三学年の番となり、一走目として自分が走るコースに立つと、今までの緊張の比ではないくらい、心音の速さと大きさとなっていた。不安になっていた時、クラスメイトから大きな「頑張れー!!」という声援が聞こえた。その声援で、これまでの緊張や不安を吹き飛ばし、クラスの為に自分の全力を出すということに集中出来た。ピストルが鳴り、一心不乱に走った結果、一番でバトンを渡すことが出来た。その後も、仲間がそのリードを守り、優勝を勝ち取った。

三組として、クラス対抗リレーと大縄跳び、綱引き、騎馬戦は全て優勝することを目標に掲げていたので、クラスに大きく貢献出来たことが、何よりも嬉しかった。高校最後の体育祭は、本当に良い思い出となった。

三年四組 久保田 鈴子

運動があまり得意ではない私は、中学の頃は体育祭にあまり積極的に参加しま

せんでした。しかし、高校生になり、特に今年は人生で最後の体育祭になるかもしれないという思いから、気を引き締めて当日を迎えました。

私は二人三脚、大縄跳び、綱引き、そして追いかけて玉入れに出場しました。その中で一番印象に残ったのは二人三脚でした。中学の時、先輩たちが体育館の裏で二人三脚の練習をしている様子を見たことがありました。当時、なぜそれほどまでに二人三脚に情熱を注いでいるのかが理解できませんでした。しかし、今回実際に自分が挑戦し、その理由がようやく分かった気がしました。皆で一つの目標に向かって取り組む楽しさ、そして最後までやり遂げた時の感動は最高で、これこそ青春を謳歌しているということなのだと感じることができました。

体育祭が無事に閉幕した後、私の周りには安心した表情を見せる後輩たち、悔しがつている先生方、楽しそうに笑っている保護者の方々、素敵な笑顔を見せるクラスメイトで溢れていました。今日という日は、いつか皆の思い出となり、その思い出のページに自分もいるのだと思うと、とても誇らしい気持ちになりました。

今後はより一層、様々な経験を積み重ね、思い出を作り、周囲と喜びを分かち合える人になりたいと思います。



文化祭



十一月二十五日(土)・二十六日(日)に、第二十八回紅葉祭が開催されました。

「秀色神采く彩れ!これが僕らの紅葉祭」をスローガンに、各クラス企画、選択科目や部活動の作品・動画が披露され、ステージ発表も行われました。また、実行委員の皆さんが春夏秋冬と海をテーマに階段と大教室に華やかな装飾を施してくれました。

今年度から飲食企画、保護者会主催バザー、校友会ひまわりのカフェも再開され、二日間大盛況となりました。生徒だけでなく、保護者や卒業生、見学者の方々も大いに楽しむことができました。

どの団体も協力して活動に取り組み、今年も素敵な紅葉祭を作り上げてくれました。



文化祭を終えて

吉武 智裕

昨年度の文化祭は様々な制限の中の開催でしたが、今年度の文化祭は飲食企画も行われ、大盛況となりました。今年度の文化祭スローガンは、「秀色神采く彩れ!これが僕らの紅葉祭」でした。どのクラスも、このスローガンに恥じない素晴らしい企画ばかりで、長い準備期間の中で、計画的に企画を進めていった結果が、しっかりと表れていました。

また、実行委員の生徒も、クラス企画と並行しての作業はとも大変だったと思いますが、階段や五階大教室の華やかな装飾を施してくれたことで、文化祭の成功に大きく貢献してくれましたね。そして五階大教室でのステージ発表を行った団体も、たくさんの練習を積み重ねた成果を遺憾なく発揮できていました。

私は皆さんが周囲のことを思いやりながら行動できた結果、今年度のような素晴らしい文化祭になったのと感じています。「どうすれば、来店した人が満足してくれるか」、「どうすれば、皆が喜んでくれるのか」、そういったことを皆さんが考えながら準備期間から取り組んできたのだと思います。周囲のことを常に考えながら生活することは、難しいことです。しかし、今後生きていく上で必要なことだとも思います。今回の経験を、通常の学校生活にも活かしていきたいでしょう。

文化祭実行委員長より

三年四組 福原 美心

二日間にわたる紅葉祭、皆さんお疲れ様でした。文化祭の終わりと共に冬の寒さを感じるようになってきました。三年生の私は、周囲が徐々に進路が決まり始め、卒業が近づいてきていることを実感しています。

今年の文化祭は、今まで制限がかかって行われていなかった飲食企画や、保護者役員会のバザーが行われるなど、昔の文化祭に戻りました。三年生にとって、初めての飲食企画になったので、試行錯誤の連続でした。当日も上手くできるか不安や緊張でいっぱいでしたが、来場された方々に「美味しかったよ」と声をかけて頂けました。とても嬉しく、また良い経験ができました。

実行委員長として、皆さんと一緒に作業していく中で、二年生は昨年の経験が存分に発揮されていただけでなく、仕事に対する強い熱意を感じました。来年には最高学年として自覚を持ち、後輩達を引っ張っていつてもらいたいです。一年生は、分からない事が多い中でも、一生懸命に自分の役割を果たしてくれて、華やかな文化祭を作り上げてくれました。

私たち三年生が行事を通して皆さんと関わる事ができるのも、あとは卒業式のみとなります。今後の行事は、後輩たちがしっかり受け継いでくれると信じています。今回の文化祭を通して培った経験を来年度に活かし、より素晴らしい企画を作りあげていってください。

一年一組 久保 洸二朗

今回の文化祭で、私にとって印象に残ったことが二つあります。

一つ目は、クラス企画のシフトの時間に、上手に接客対応が出来たことです。私はもぐら叩きの簡単なルール説明や、空いている穴から紙コップで作ったマリオのもぐらを出したりしました。また、他のゲームが混雑している際に、空いている方のゲームにお客さんを誘導することが出来ました。

二つ目は、この行事において、クラスメイトとこれまで以上に交友を深められたことです。準備期間で教室内を装飾している際や、外に買い出しに行った時などに、クラスメイトとたくさん会話することが出来ました。更に、文化祭当日の二日間は、自分のクラスのシフトが入っていない時間に、様々なクラスの食品やゲーム企画を友人と一緒に回りました。

文化祭では、自分自身が大きく成長したと実感出来たことがたくさんありました。この経験を、今後の学校生活や、来年度や再来年度の文化祭に活かしていきたいです。また、今回身につけた実力を、高校卒業後に大学の文化祭などでも発揮し、更なる成長を遂げられるようにしていきたいです。

今回の文化祭が私にとって誇りに思えるものになるように、これからの学校生活も、有意義に過ごしていこうと思います。

一年二組 小澤 愛

十一月二十五日と二十六日に、高校に入学して初めての文化祭が行われました。私たちのクラスは、「謎Qの森」というクイズ企画の出し物をやりました。ここでは、クイズの正解数に応じて、景品を貰うことができます。

準備期間には、色々なジャンルのクイズを皆で考えました。私もクイズ作りを担当し、アニメのジャンルで、大好きな「名探偵コナン」のクイズを作成しました。他にも、段ボールを丸めて丸太を作ったり、クイズ用紙を切って箱にまとめたりしました。中でも、皆で景品の買い出しに行き、一緒に菓子を選んだことは楽しかったです。

文化祭当日は、朝からわくわくしていました。文化祭が始まると、自分のクラスのシフトが入っていない時間は、とにかく友達と目一杯他のクラスの企画をまわりました。フルーツサンドやチュロス、水餃子、うどんなどの列に並び、沢山食べることができました。どれも、とても美味しかったです。また、バザーや射的など、出し物の企画も楽しむことができました。

一年二組の文化祭準備は、大変なことも沢山あったけれど、皆で協力し合うことができたと思います。また、当日の二日間で、沢山のお客さんに来場してもらえたので、とても良い文化祭になりました。来年の文化祭も、今からとても楽しみです。

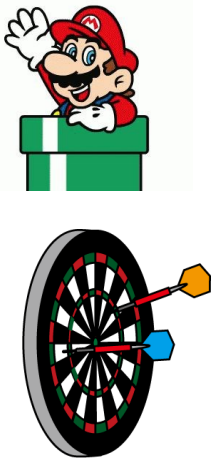
一年三組 ステンバーグ 叶夢

長い準備期間を終え、文化祭当日を迎えました。お客様がたくさん来場してくれていたのが、私のクラスの出し物であるダーツのシフトで接客をするときはとても緊張しました。初めての経験で、最初はあまり上手くダーツのやり方や獲得ポイントの説明ができませんでした。

しかし、役割に慣れてくると、接客の仕事に自信を持って取り組めるようになり、楽しく感じました。結果として、一日目は五百人以上のお客様が来て下さり、とても嬉しかったです。

二日目は、午前中にシフトの空き時間があったので、お昼ご飯にフランクフルトを食べました。とても食べ応えがあり、美味しかったです。他の飲食企画も美味しかったし、ゲーム企画も面白かったです。午後のシフトの時間は、一日目と同じ役割でお客様の対応をしました。一日目よりも慣れて、接客も楽しめました。結果、二日目は約七百人の方がダーツで遊んで下さり、達成感を味わうことができました。

今年度の文化祭は、とても充実していて、思う存分楽しむことができました。来年度も頑張りたいです。



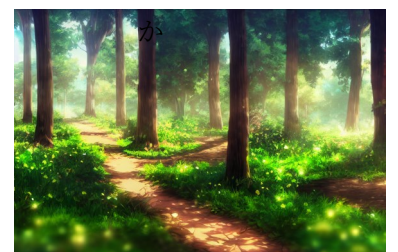
一年四組 田中 愛紗

十一月二十五日と二十六日に東京文理学院で文化祭が行われました。全員がこの二日間の為に、たくさん準備をしてきたので、当日がとても楽しかったです。今でも覚えていています。

一年四組は、縁日をしました。内容は、スーパードールすくい、輪投げ、くじ引きの三つです。そして、教室の雰囲気は、ジブリに決定し、ジブリフェスティバルとしてお店を出しました。十一月になってから準備を始め、みんなで放課後に残って作業をしてきました。段ボールで様々な物を作りましたが、一番楽しかったことは、千と千尋の神隠しの橋をみんなで一緒に作ったことです。全ての装飾が完成した教室は、とても綺麗で、楽しそうな縁日の場所になったので良かったです。

当日、私は、輪投げの接客をしました。輪投げは、輪を入れることが難しく、苦戦しているお客さんがたくさんいました。それでも楽しそうに輪を投げているお客さんの姿を見られたことが何よりも嬉しかったです。また、私の母と妹も遊びに来てくれたので、良かったです。当番ではない時は、友達と一緒にお店をまわりました。バザーやうどん、ポップコーンなど、どれも楽しく、おいしく、良い時間を過ごしました。

私にとって初めての文化祭は、良い思い出になりました。どの学年も綺麗に装飾していて素敵だったので、来年の文化祭も楽しみです。



二年一組 大西 遙

今年度の文化祭は、ゲームの製作や工夫を凝らした装飾など、準備がかなり大変でした。しかし、その大変さが消えてしまうほど、楽しく思い出に残る文化祭になりました。

私のクラスは、台湾の夜市に出店されているレトロゲームを再現して提供する企画を行いました。私の担当は「玉転がし」という、玉を転がして指定の枠に入れ、点数を獲得するゲームなのですが、細かい部分に関してグループの意見がなかなか一つにまとまらずに、実際の製作に移るまでかなりの時間を要してしまいました。それでも、前日までにはしっかりと作ることができ、満足のいくゲームを完成させたと思っています。また、装飾に関しても、台湾で使われてそうな提灯や、夜をイメージしてクラスを暗くするなど、様々な所を工夫しました。

当日は、飲食店が四年ぶりに開催され、昨年度とは違い、見て、食べて、体験する文化祭となり、全力で楽しむことができました。中でも私が印象的

だったのはうどん屋でした。とにかく美味しく、二日間とも食べました。

今年度の文化祭は色々なことに挑戦し、新しいことをいくつも発見できました。また、友人と過ごした時間は、かけがえのない時間になりました。来年度で高校生としての文化祭は最後になるため、今年度の経験を活かし、より良い企画を残していきたいです。

二年二組 西山 夏央

私は文化祭をやるにあたって文化祭実行委員になることを決めました。その理由は、文理での高校生活を悔いなく過ごしたかったからです。私は二年次からの転校生であり、前の学校では行事に対してあまり良いイメージがありませんでした。以前のようにマイナスな気持ちではなく、全力で高校生活を楽しもうと思いました。

準備期間では、クラスと委員会の両立が大変でしたが、とても充実していました。クラスでは看板作りを中心に行いました。委員会の活動の間にこまめに作成したことで完成させることができました。委員会では模造紙を切り抜いたり、スズランテープを巻いたり細かな作業が多かったです。

文化祭当日は、選択科目声優の発表とクラス企画の受付の仕事をしました。声優のステージでは走れメロスの発表をしました。台本のセリフを全て覚えるほど練習をしました。受付では事前に金券をいくつももらう必要がある

のかを確認して、正確に受け取るよう心がけました。それだけでなく注文も間違えないよう気をつけて仕事を行いました。そこで、一つひとつ丁寧にやることで、お客さんに感動してもらえらることに気がつきました。

準備から当日にかけて、何事においても丁寧に行うことで、自分自身も良い影響を与えたと学びました。お客さんや一緒に作業をした仲間、そして自分自身までもが良い気持ちになれることがわかりました。その経験を普段の学校生活にも活かしていきたいです。

二年三組 中島 悠吾

十一月二十五日と二十六日に文化祭が行われました。今年度はクラス企画だけでなく、演劇部と選択科目の声優の発表がありました。クラス企画では、今年度は射的を行いました。射的台をクラスメイトと一緒に作成しましたが、天井から吊るすなど、大がかりな製作はとても難しかったです。しかし、当日のお客さんの様子は、とても楽しまれていて、素晴らしい企画になったと感じています。

今年度の文化祭の中で、特に大変だったのが演劇部での劇の発表です。昨年度はたくさん練習したのにも関わらず、急遽、体調不良で欠席してしまいました。参加できなかった悔しさと先輩方に迷惑をかけてしまったという気持ちがあったので、今回は必ず最後

までやり遂げるという強い気持ちで練習に臨みました。

当日は、緊張もしましたし、劇の中の言葉の掛け合いや難しく長い台詞回しはとても難しかったです。大きなミスなく、最後までやり遂げることができました。安心感と満足感があり、とてもうれしかったです。

来年度は高校生活最後の文化祭になるため、今年度よりもみんながもっと楽しめる文化祭になるよう頑張りたいです。

二年四組 金城 舞翔

十一月二十五日、二十六日の二日間に渡り、「秀色神采く彩れ！これが僕らの紅葉祭」のスローガンの下、文化祭が行われました。二年四組のクラス企画は、「POP LAND」という屋号で、ポップコーンと飲み物を提供しました。文化祭当日までに、教室の装飾以外にも提供するポップコーンの味を決めたり、ポップコーンに振りかける粉の量を決めるために試食をしたりしました。また、前日までに、教室の装飾の他にメニューやチラシ、スライドショーをクラスメイトと協力して作成しました。昨年度の展示企画に比べて、やるが多かったのですが、何とか完成しました。

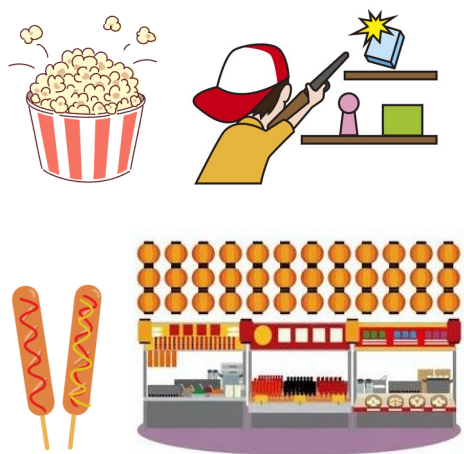
文化祭の一日目は、塩味、チーズ味とカレー味、キャラメル味にチョコプレート味のポップコーンと飲み物は、コーラにリンゴジュース、ウーロン茶を提供しました。二日目は、チーズ味、カレー味に

替わり、バター醤油味とコーンポタージュ味を提供しました。両日ともに開会宣言直後から、たくさんのお客様に来てもらえました。ポップコーンの売れ行きは上々で、ストックしていたポップコーンがすぐになくなってしまったほどの盛況ぶりでした。

また、自分の担当ではないときも作成したメニューを持って校内を回って、宣伝をしたり、二年四組にいらっしやれない先生方から注文を受けたりしました。

さらに、実行委員会の副委員長として、緊張する中、一日目の閉会宣言という大役を果たすことができたことは、とても印象に残っています。

今年度から飲食企画が復活し、教室の装飾から飲食の販売まで大変でしたが、昨年度以上に、文化祭を楽しむことができました。来年の文化祭でも、実行委員として、今回経験したことを活かして、今年度以上に文化祭を盛り上げていきたいと思っています。



三年一組 石川 大貴

十一月二十五日、二十六日に私たちにとって高校生活最後の紅葉祭が実施されました。

私たち三年一組は、中華風の装飾と水餃子の販売を企画しました。今年の文化祭から、新型コロナウイルスの影響によってかけられていた制限が緩和され、これまで実施することが難しかった飲食企画が実施できるようになり、とても嬉しかったです。今年度の文化祭で飲食企画が実施され、印象に残ったことは二点あります。

一点目は、美味しい食事とスイーツを沢山食べられたことです。特に、三年一組の水餃子や三年三組のフルーツサンド、そして、二年二組のフルーツなど、今でも味を忘れられない程の美味しい食べ物を、友人たちと一緒に食べられたことがとても楽しく、大切な思い出です。

二点目は、自身のクラスに大勢の方が来て下さったことです。初日の開店間際の来客数は、列ができるほどではありませんでしたが、時間が経つごとに少しずつお客様が増え、行列になる程でした。リピーターの方も多くいらっしやったので、私たちが提供した水餃子を美味しいと思ってくれていることを実感しました。

今年の紅葉祭は、飲食企画が解禁されたことにより、昨年度までと比較すると、大変な面も多々ありました。しかし、今まで以上に楽しい思い出を作

ることができました。残り少ない高校生活を、一日一日大切に過ごしていきたいと思っています。

三年二組 馬場 翔吾

今年度の文化祭を一言でまとめると、「楽しかった」という言葉に尽きる。そして、高校生最後の文化祭のクラス企画はとてうまくいったと感じている。

そのうまくいったことには具体的には二つある。一つ目はクラスの「江戸っ子うどん」のお店がうまくいったことだ。実際に今年は多くの生徒や保護者の方にお越しいただいた。その為、調理場はいつも忙しく、大変だった。私が調理場を担当していた時はとても忙しく、十分程度しか経っていないだろうとふと時計を見ると、いつの間にか一時間も経っていたことにびっくりした。それくらい時間の経つのが早く、忙しかった。それでも、たくさんのお客様がきてくれたことは本当に嬉しかった。

二つ目はうどんが美味しかったということだ。今回販売したうどんはどれもとても美味しかった。中でも、たらこうどんは最高に美味しかった。正直うどんとは言えない食べ物だったような気がしたが、とても美味しかった。

準備期間が短い中、クラスの皆が最終的には協力し合い、よくここまで出来たと思っている。高校生活最後の文化祭はとても良い思い出になった。

三年三組 仲山 智也

高校最後の文化祭。私たち三年三組は飲食企画を実施することとなった。それに伴い、クラスでどんな飲食を提供するか話し合い、様々な意見が出た。そして、「スイーツサンドウィッチ」に決めた。話し合いの中で、皆の飲食企画へのわくわくを感じる事が出来た。

私は準備の段階で装飾担当ではなく、お客様の来店から退店までの導線を考えるのかを考えることは難しかった。

そして、文化祭当日。私はキッチンを担当することになった。言うまでもなく、フルーツサンドウィッチを作るのは初めてである。そのため、上手く作れるか、素早く作れるかといった不安と、最初で最後の飲食企画の文化祭へのわくわくが入り交じった気持ちだった。このような気持ちの中、一つ一つ丁寧に早くサンドウィッチを作っていた。その結果、たくさんの方から「おいしかった」という言葉をもらうことが出来た。

とても充実した文化祭となり、最後にふさわしい思い出深い文化祭となった。少し残念だったことは、看板メニューの一つである「ともやスペシャル」が不人気だったことである。

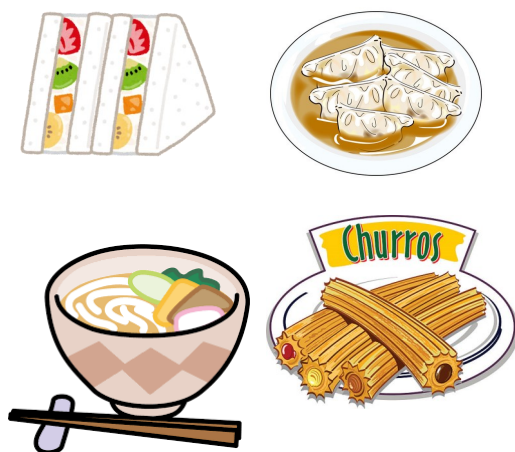
三年四組 鈴木 綾乃

クラス企画がチュロスに決まったものの、作業が進まず、文化祭当日までに間に合うか不安でしたが、装飾担当の各班に分かれ、リーダーを中心に作業を始め

ました。私は写真スポットの装飾担当になり、同じ担当メンバーと話し合っ、巨大なトトロを作ることに決めました。

最初に取り組んだのは、巨大なトトロを作るためにどの部分から作り始めるかについての話し合いでした。結論として、ダンボールで形を作り、その周りを新聞紙をちぎって貼っていくことになりました。トトロが大きすぎて、作業が大変でしたが、周囲と協力し、最後は担当メンバー関係なく、クラス皆で協力し、前日には無事全ての装飾を完成させることができました。

文化祭当日は、受付や調理など、様々な仕事をこなしました。かなり忙しく大変でしたが、その分とても充実して楽しく過ごすことができました。最終日に担任の先生からチュロスが完売したと聞いたときは、とても嬉しかったです。高校生活最後の文化祭で、素敵な思い出ができました。



各種検定

漢字検定合格者

一年一組

阿部 隼方 大津 陽幸
 工藤 航太郎 小鷹狩 彩芽
 藤本 修輔 吉川 竜生

一年二組

大野 真輝 敵 太那
 黒田 穂乃佳 須賀 裕平
 山本 唯葉

一年三組

大橋 健心 鬼頭 飛悠
 佐賀 琉輝 福島 陽向

一年四組

江尻 美未 笠原 知香
 齊藤 晃大 田中 愛紗
 田村 真之

二年一組

相原 千翔 小野澤 柊子
 昆 美代子 嶋 一樹
 竹内 悠宇飛

二年二組

小森 愛友 宮前 航

二年三組

柿沼 翼 三木 康太郎
 山本 蒼天

二年四組

湯ノ谷 奈那

三年二組

中曾根 里沙



英語検定合格者

一年一組

大津 陽幸 久保 洸二朗
 坂尾 仁朗

一年二組

秋元 天成 河野 美樹子
 月ノ井 聖和 濱中 樹
 松雪 旺介

一年三組

佐賀 琉輝 ステンバーグ 叶夢

一年四組

高林 芽愛

二年一組

荻原 志桜里 牧之瀬 優輝

二年二組

大葉 秀 岡本 莉子
 小澤 駿二

二年三組

柿沼 翼

三年一組

釣井 咲来

三年四組

古島 創



毛筆書写検定合格者

二年二組

渡辺 光稀

硬筆書写検定合格者

一年四組

加藤 大暉

三年四組

福原 美心



「大学時代の思い出」

事務 齋藤 郁美

大学時代フラダンスサークルで学んだことをお伝えします。入部当初、学園祭でダンスを披露することを目標に日々練習に励んでいました。しかし、私は皆とダンスの振りが合わず、上手く踊れませんでした。私には向いてないと挫折した時期がありました。

先輩に相談をしたところ、「踊りに向いてないと自分で決めつけてない？フラダンスは皆で息を合わせて踊るもの。最初から諦めてはダメだ。」と教えていただきました。その先輩の一言で、自身の意識が変わり、どうしても上手く踊れるか考え、自己練習に力を入れ、部員たちと協力し合いながら努力していききました。

ついに学園祭の日、お客さんに向けてダンスを披露し、沢山の拍手に包まれました。今まで大変だった練習の日々が無駄ではなかったと感じました。この経験を通して、やる前から諦めない、まずやってみる、出来ない分努力することの大切さを学びました。

生徒の皆さんも、困難なことに対しても、まずはできることから挑戦してみてください。意志のあるところに、道は開けると思っています。

